都高時報
第六号
昭和27年1月18日発行
発行所
都大附高新聞部
編集責任者　高橋義孝

進適検査の結果発表

昨年の十二月十六日全国一斉に行われた進学適性検査の結果の発表が一月十二日に行われた。今年は去年に比して問題がやさしかった為か、平均点は一般に高い模様だ。

我が校の受験者は、卒業生六十三名、在校生一三四名で、平均点は在校生六〇・四七点、卒業生六六・〇六点で全員一九三名の平均は六四・九七点である。

他校との比率は未だ確実な所が発表になっていないが全国で五番以内は確実だろうと学校側では見ている。

去年よりはやゝ劣ろうた感じである。彼は三月に各志望校で行われる入学試験の一つということになる。

今度の適性検査の結果について、諸先生はその感想を次のように漏らしている。

小笠原校長談

「思っていたよりも悪い。東大の入学は六〇点位が最低線であろう。後は各学科に全力を注いでもらいたい。」

鈴木教務課長談

「問題が易しかった為に相対的には点が良い。去年点がよかった者に今年は少し熱心さが欠けていたようだ」

佐山三学年主任談

予想したより少しく強かったと思う。」

野球部に再出発の声挙る

休みが終った一月十日(木)野球部の発起人三名によって校友会活動に対する批判の意見文が張られた。部室の現状を見てみると大部してない者が一、二年に約半数もありこのため来年は廃部がされるだろう状態である。旧制と新制の雰囲気が合わないという点もあるかも知れないが、多くの校友会活動に対する無関心が最大の原因であるといわれよう。その他何もかも校友会活動の支障となっているようである。高校生活の真の意義を知るには校友会活動に参加するのが最もよい方法である。野球部、水泳部などは来春の新入生に期待をかけている状態であり、又生徒間に校友会をもり立てていこうという意気が欠けているようだ。野球部の声明の中には建設的な案が出されていたが各部がこれに応じて愚痴のない合理的な計画を実行すれば新入部者も増し校友会活動も再び盛になり伝統を更に輝かしいものに出来よう。

校友会刷新問題起る!!

昨年不振であったサークル活動に対して刷新の機運が活発に擡頭してきたのであったが具体的な刷新活動にまで至らずして新年を迎えてしまった。

クラス自治と並んでサークル活動は自治活動の二大車輪であり両者の一方でもその活動を停止しているようでは完全なる自治の発展は望めないし、又別の観点から見ても高校生活における意義が見失われる危険がひそんでいると云えよう。

従って今後如何に現在の停滞状態を打破し、活発な意義ある自治活動の一端として、サークル活動をもり上げて行くかは、現在の状態に至らしめた種々の要因を究明にとらえ　それらの要因を早急に除去して行かねばならないし、これらを遂行して行くのが残された今学期の課題である。

そこでこの刷新について二、三問題になる点を列挙する。

一、現在最も活動を阻害しているのは補講等による放課後の使用困難である。三年生は別としても一、二年生に於ては補講を余りにも重要視し、本来の高校生活の本質を見失いかけているのではないか。全学年が一緒にサークル活動に参加できるように補講の日を全学年を通じて同じ日にするべきである。

二、予算の絶対量が少ないのに反し、いろいろなサークルが乱立しているため分配される予算額が少ないので思う様な活動が出来ないでいる部分が殆んどである。之を克服する為にはやはり乱立せるサークルの数を整理統合する事によってへらす必要があるが、この際各サークル活動の公平且つ詳細なる調査と慎重な判断が望まれるわけである。

三、全然サークル活動に参加していない人が多数いることである。特に一年生諸君の積極的参加を望むと共に、各サークルは新しい部員を獲得するために皆に親しまれ気軽に入部できるような雰囲気を作るべきである。

四、元来各サークルと自治委員会とのつながりが明確でなかった。サークルもクラス全体に自治委員会との有機的な関係をもたせ、常にサークルにおける意見が反映されていかねばならない。

新年に際し読者の皆さんへ

読者の皆さん、一九五二年を迎え「都高時報」も二年になりました。

しかし吾々新聞部はこの新年を目出たいのみですごすことは出来ないのです。

何故ならば、先年来自衛軍を徴兵制にと議立て大新聞はその後も引つづきその騒々しいサエズリを止めないばかりでなく、現に吉田政府は新しい内閣改造に当って治安責任の大臣をおいたではありませんか。

今や、吾が「都高時報」が十一月、十二月の二回に亘って別々の角度から論評を加えた再軍備問題は単なる白日夢ではなく吾々二十才近くの青年にとって現実の怪物となって目前に迫って来ました。

吾々未来をもつ青年の中に誰一人として戦争を望み、兵隊になりたい者が居るでしょうか。大新聞などんなに吠えようと、大橋氏が如何なることを云うと決してその様な者はいない。

現に吾々新聞部の与論調査は本校生徒の九四％が徴兵に反対している事を示しているし、他の科学的な与論調査に於ても殆んど同様又はこれ以上の事実が見られ、如何に平和への欲求が強いかを示しています。

皆さん、吾々は此の若き情熱を真のあるものにしなければならないのです。吾々は徴兵の直接利害関係者ですし、日本の学生としてかゞやかしい反戦と反軍の厂史をもっています。

吾々も皆さんと共にその厂史を引き継ぎ、祖国が平和憲法（世界に誇り得る）を捨て、徴兵による再軍備をすることに断固反対しようではありませんか。

吾々新聞部は読者の皆さんに呼びかけると共に、自らモットーとして来た平和のペンを捨てないことを誓います。

吾々はかつての「府高時報」があのいまわしい戦争のために発禁になるまでの八年間、自由な新聞であったほこりをうけつぎ、学園内の自由と自治を守りぬくものです。又旧制時代の都高時報が自治会の創立に最も力をつくしたということも忘れません。

皆さん「わだつみの声」を二度とかゝないですむ様にしましょう。

吾々新聞部は新年に当って此等のことを誓い、大いに奮斗する覚悟をあらたにした次第です。

出席率の悪い自治委員会

最近続けて三回も自治委員会が流会になっているがどうした事か。昨年末校友会刷新運動が起ったにも拘わらず、その後何の進展も休み以来は見られない。聞く所によれば自治委員の出席率が悪くて活動が出来ないという事だが、之はどういう訳だろうか。自治委員の怠慢と共に自治委員会の母体であるクラスの中に自治活動に無関心な者が多いということも其原因の一つである事は確かだが特に現在種々な面から問題となっている学校の自治をリードすべき立場にある自治委員迄が委員会にも出席しないという事は許されない。特に一年委員の怠慢さにも驚かされる。今校友会刷新問題が起ってきているがこんな問題等充分徹底的にやるべきではないだろうか。

ふしあな

自治委員会が校友会刷新問題を取上げたことは誠に当を得ていると云わざるを得まい。

学年初めの予算会議が近づくと無理をして迄部会を開いたり、如何にも活発な運動をしているかの如くに装う。予算会議が始まると沒論理にできるだけ獲得しようとしてさわぐ。そしてがっちりと獲ってしまうと恰も人を悩ましに現れた幻が夕霧に消されてゆくが如くに影がなくなる。そんな騒ぎをして分取った金が一体どこにどう行くかなど、全く一般の生徒には推測もできない位、地下ならぬ校下にもぐりこんでしまうのだ。まことに要領という次第。

所で校友会の会計がこんな風に牛の涎れ然としているのならばこれ程公平な事は無いが中にはかゞやかしい自治なるものを守ってやっている部はきまってゲル・ピン。それが致命傷となって活動が出来ないのだ。

こんな有様をみて、〝刷新しよう〟というのが普通なので、〝余計なことをするな〟なんて云うのはアナーキーの中でのみくらして行こうとする方々なのだ。予算会議で騒ぐ前に自治は公正を基調とすべきであることを我々は改めて考え直す必要があるということだ。

パンの御用は
玉屋ベーカリー
都立大学　前通り坂下

和洋紙、文具、事務用品
ゴム印　木判　各種印刷
紙の御用は
津国屋商店
山本直房
東京都立大学前通り
東京都目黒区柿木坂一七六
電話　荏原(08)　五四七三番

ふるほん、各種取揃
都立書房
都立大学坂下

あなたの　アたまは
アヅマ理髪店
都立大学坂下
電話(08)　〇四一八

處方調剤
医薬品　度量衡器　計量器　販売
有限会社　中村薬局
電(08)　三九五四番
都立高校駅前大通（中根交番前）

停滞状態の校友会各部

校友会刷新問題が自治委員会で取上げられ、我が都立高校の健全で活発な部を作って行こうとしている際、余り活発でないいくつかの部を拾って紹介してみる。今後大いに考えて活発化に努めたい。

▼演劇部

今迄は三年のみでやっていた。このまゝでは三年の卒業と共に形さえなくなるという状態である。大いに張り切ってもらいたい部であるだけに現状は憂慮される。そこで今二年一年に呼びかけ、再興に努めているが熱意を持って動いているのは小川君(二A)だけだ。生徒諸君の協力が望まれるわけである。

▼児童文化研究部

記念祭頃迄はまあ活動していたが男子の部員が一人もいないことなど部としては弱体も甚だしい。現在の一二年生に男子の積極的参加がなければ今後活動出来ないという状態である。児研に対する認識と理解を全生徒にもって貰いたいところである。

▼ダンス研究部

実に影の淡い部である。一年生など部があるかどうかもしらないような有様である。今後校友会刷新などに関連して大いに批判されなければならない。

▼山岳部

部員は三年の男子のみで八名、昨年夏までは細々と活動らしいものをやっていたが、何分にも三年だけなので活動不可能になっている。

校外短針

◎税務署のてバイト

目黒高校では税務署からの要望に応じてトクン状宛名一日実に五百枚でそれだけの人をうんざりさせて百七十円とは?(目黒高新より)

◎校歌のない学校

小山台高校では生徒間から校歌を募集し校歌選考委員会という厳めしいところで選定しているが今迄式等で何を歌っていたのだろうか(小山台新より)

◎異性と話せば停学

沼津市の某高校では親又は教師の許可を得ないで異性と話しあったり連立って歩くことを禁止した。同校生徒会はもしこれに違反した場合は三日間停学という規則を満場一致で可決したという。

(暁高より)。

◎福島県の新聞発禁

福島高校では日教組主催「教育を守る運動」に対し生徒会で賛決議をしその記事を同校の新聞にのせたが、学校より「[illegible]の為、教育がへる故々」の記事がまずいと、発禁にされたばかりでなく自治委員長迄が停学のお目玉をくったとのこと。

(信陵新より)

もっと活発に活動せよ

—図書委員会に望む—

去年新しく音楽室に図書室を設けてからすでに半年になろうとしている。記念祭前活動していたが、記念祭後はさっぱり。記念祭前にかし出した本がまだまだ数多書庫に帰って来ていないという状態だから、どうせ大変になって来た。

貸すだけでなく、督促もするのが図書委員の役目だ。忙しいことと同情はするが、もう少し活発にしてもよかろう。

記念祭前、図書委員会を開いたまゝ、三年生の図書委員は全部活動せず、有名無実、二年生も、余り熱心ではないようだ。残る一年生の数名が一手にひきうけることになるが、これも人員不足で不活発。

誰でも利用できる筈の図書室が、書い本がかえるひまもないのでは、利用しにくい。一週間の期限をまもらないものは、今後遠慮せず、どしどし(四・五日の借出停止を宣言すべきだろう。

とにかく図書委員会は借出生徒間相互の扇懐を指摘したい。今後図書を増加させ、借出しを円滑にするため、全力をつくしてほしい。

更に普及したいことは、図書委員会に独自性のないことである。学校側から経営の独立制度が認められていないが、図書購入及び図書室経営に何ら独立性がない。

これから生徒の希望調査でもして、希望に副うようにしてもらいたい。

これからの文研

他校においては活発な文研も、我校ではふるっていない。原因は一年生がいない事だ。私達も文学について何も知らないのだから卒館に入ってもらいたいと云っている。

現在、活動としては二十名位で〝源氏物語〟を、土曜日の一時からよんでいる。

又、一月中に、文研誌を作るらしい。

◎期待される一年生

一般に校友会の各部が停滞する大きな原因は一番活発であるべき一年が不活発の為であろう。自覚めよ、一年生

小場瀬卓三氏講演会とレコード・コンサート開催

昨年新たに発足したフランス文化研究会では十二月十一日放研の後援でフランス文化—特にサルトルの哲学と文学について小場瀬卓三氏の講演会と、レコード・コンサートを開いた。氏は実存主義の不合理性を鋭く非難し、先ず「実存主義の流行している原因をジャーナリズが実存主義が因果率を認めない事、即ちこれを発展させれば社会発展の必然性を否定する結果となるからこれを資本主義陣営の立場として利用しているのだと断定出来る。そして実存主義はすべて物質を実存としていて人間の精神的な尊厳を認めていない。更にサルトルの文学は自分の哲学をもる器であって人物を人物として書くのではなくその手段として書いており「嘔吐」「自由への道」などでは存在の意義のない人物を書いている。又彼の文学作品は「水いらず」で見られる様に汚らしいし「汚れた手」に現われている如くサルトルは反共的である」。—仏文研では今年はフランス文学史をやり始め、原典の輪読の傍ら仏語もやって行く(P.B)

投書

平和運動といえば殆々の大部分は、あ、急進分子が何かやっているな位に考える。何故だろう。我々の多くは平和という事に極めて無関心に勉強に専心している。しかしこれは実に恐るべき現象である、今は平和なのです。極めて不安定な平和だけれども—平和というものは人間すべてが心に固く誓わねばならない事なのだ。平和に国境はないのだ。平和は世界観を超越したものなのだ。世界観に左右されてはいけない。平和が保てない時我々は勉強に専心出来るだろうか。あの忌むべき戦いのさ中我々はどうあったか思い起してみるべきである。連日の空襲、授業中止、防空訓練…諸君、今と比べて見給え。誰が平和を叫ぼうと、誰と誰とが手を握しようと構わない。平和が急進分子の叫ぶものだとするのはものの皮相の観察である。諸君、もっとよく本質を見つめてくれ給え。

徒らに安易に放置するものではないのだ。人間はのど元すぎれば熱さを忘れるものであってはならない。

2C浅輪幸朗

▽投書を募集します

四百字以内で、随時新聞部員迄。

全校的なものに

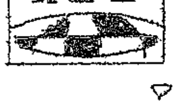
記念祭にバレエ研は第一回の発表を行った。が、これは都高開校以来始めての事だったので皆の興味を大変ひいた。その後一番大切な基本的な練習を重ねている。現在は一年ばかりで教師も来ていないが今後全校的な研究会になる様努力している。バレエなどというとアプレの代表的なことの様に思われたが、この研究会はバレエ芸術に対し真面目に考えている。尚四月末には新入生歓迎の発表をする計画をもっている。

二月に期待を

発足当初は、今の二年だけの女子籠球部は一年の入部者を加え、現在はOBのコーチャーのもとにまとまりを見せて来たようだが、それにもかかわらず、経験の乏しさからか、昨年の暮に行った白鴎高校との試合も敗退してしまった。

しかし、二月に女子バスケット・リーグ戦がある予定で、それを目標に、日曜までも練習をかさねて、ハリ切っているようだ。好成績を期待するな。

凸面鏡



▽授業がはじまった七日の十一時半頃突然、サイレンと共に、鉄兜、黒しょう束のオヂサン達が校庭にかけ込んで来た。

▽何事かと思ったら、血相かえて「火事はどこだ」どこもけむりの出ていないのに、オヂサンたちボンヤリ、間もなく消防無線車の中で……「エ、火事は目黒高校だって」

▽そのとき、玄関にあらわれた三之助氏、けむりの出ている東北の方をさして「アッチ、アッチ」

本誌活版化

(編輯後記)

一九五二年も、はや十八日をむかえたが、此の所まるで、嵐のまえのしづけさという感じのする新春である。我々は部内拡充に力を注いだ為に二回発行を行うことにした。尚本紙活版化の準備も進み新学期より写真入のよみ易い新聞になります。御支援を切望します

パン・菓子の御用は
手近かの
旭ベーカリー
都立大学 通用門前

和菓子とパンの御用は
都立高校駅前
福好
(08) 四六四九

2月1日～7日
ダラス

25～31日
2本立
イヴの總て
三人の妻への手紙

18日～24日
2本立
快傑ダルト
二世部隊

11時早朝割引
エビス本庄映画場
TEL (46) 4151

新鮮な果物の御用は
買いよい店
宮武果物店